しましまネット

南城市都市計画
将来像・環境保全を提起
県、初の住民説明会

【南城】県と市が進めている市独自の都市計画とマスタープラン策定について県による初の住民説明会が17日、市玉城中央公民館で開かれた。

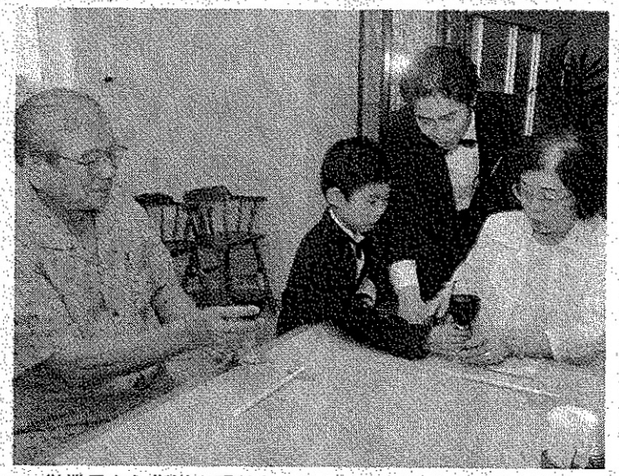
現在、大里、佐敷地区は那覇広域都市計画の下、住宅建設などに厳しく規制がかかる「市街化調整区域」に指定。一方玉城、知念地区は同都計の区域外で、海岸線や緑地帯など豊かな自然への無秩序な開発が懸念されている。

2006年の旧4町村合併後、市民からは「市一体となった街づくりができない」と懸念の声があがっていた。市は07年から独自の都計を模索、今年3月に市都計審議会が市内に区域区分を設定しない「望ましい都市計画区域のあり方」をまとめた。これを受け県は庁内検討部会や有識者による検討委を重ね、初の住民説明会開催に至った。

この日は「南城都市計画区域」(仮称)の範囲や将来像、人口推計の説明のほか、就業場所の確保や自然環境保全など課題も提起。公告・縦覧後、県都市計画審議会、国との協議に入り、国土交通大臣の同意を得て来年3月には計画決定する策定スケジュールが示された。

県は、市からの申し入れを受け自然環境を保護する目的でハンタ緑地やグスク周辺の約1100㌶を風致地区に指定する計画で、説明会を24、25の両日開催する予定。24日は佐敷老人福祉センター、25日は玉城中央公民館。いずれも午後7時開始。

祖父母にサプライズ接客
名護のホテル
富山君(小1) 感謝込め


従業員から指導を受けながらワインを勧める富山太賀君＝名護市宮里「ホテルゆがふいんおきなわ」

【名護】「いらっしゃいませ」。さっそうとタキシードでレストランの入り口に現れた孫の姿に「びっくり」―。敬老の日を前にした19日、市内のホテル「ゆがふいんおきなわ」で、こんな〝サプライズな光景〟が見られた。

同ホテルを運営する前田産業(前田裕子社長)は、ホテルマンの仕事が体験できるキッズプログラムをこのほどスタート。沖縄市から参加した美原小学校1年の富山太賀君(7)が、県内在住者第1号としてチャレンジした。

従業員から指導を受けた後、やや緊張した表情で祖父の富山健一さん(72)と祖母の清子さん(72)を出迎えた。

「どうぞ、お掛けください」「何になさいますか」。席への案内から、メニューを広げてオーダーを受け、ワゴンを押してワインを運ぶなど、従業員の指導の下、〝本物顔負けの〟出来栄え。

娘の邦子さん(44)が「いつも子どもの面倒を見てもらっているので」と申し込んだ。

富山さん夫妻は「予想もしていなかった本当にいいプレゼントをもらいました。老け込む歳ではないので、まだまだ若々しく頑張りたい」と笑顔で語った。

太賀君は「恥ずかしかったけど、おじいちゃんとおばあちゃんにありがとうという気持ちで頑張った」と話した。

同社では「普段は使わない接客用語やマナーを楽しみながら、観光産業の現場に触れてほしい」と職業体験の場としての活用や「母の日や結婚記念日など家族の思い出づくりにも利用してほしい」と呼び掛けている。ゆがふいんのキッズプログラムは3500円(子供の食事代込み)。

「ホテルマハイナ」(本部町)でも行っている。

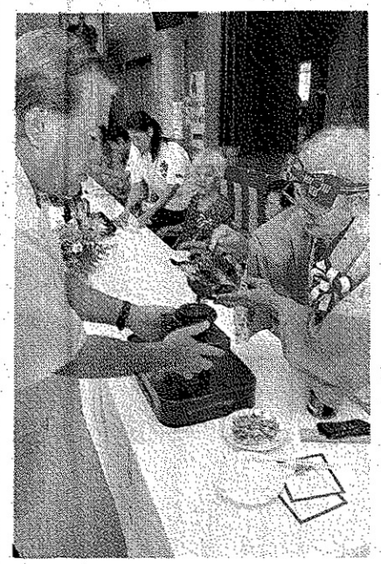
各地で敬老の日イベント

あやかり酒振る舞う
石垣の施設利用者

【石垣】市浜崎町の高齢者施設「あかゆら」(當山房子代表)は19日、市新川の双葉公民館で敬老会を開き、利用者らの長寿を祝った。

グループホーム、小規模多機能型居宅介護支援事業所、デイサービスの利用者40人と従業員らが参加。舞踊などの余興で盛り上がった。

数え97歳の上地ハツさん、田場トミさん、数え88歳の石垣ヨシさん、石垣政子さん、與那覇ツル子さん、数え85歳の後田多保さん、當山愛子さんらは、大浜長照市長や當山代表などにあやかりの酒を振る舞った。大浜市長は「カジマヤーとは思えないほど元気。120歳まで生きて、島の伝統を後生につないでほしい」と激励。當山代表は「日ごろの感謝を表すとともに、長寿にあやかりたい」と話した。上地さんはマイクを握り「ありがとうございました」と3回繰り返した。


大浜長照石垣市長(左)にあやかりの杯を振る舞うカジマヤーの上地ハツさん(右)＝石垣市新川の双葉公民館

新型インフルエンザ対策を徹底。當山代表は「みんなで祝うことを決めた」と説明した。

「若い世代に助言を」
島を支えた力たたえ
宮古島

【宮古島】市平良地区敬老会(主催・市)が18日、市平良のマティダ市民劇場で開かれた＝写真。

関係者は対象者が島を支えてきた努力に感謝して長寿を願い、老人クラブの舞踊や園児による余興で祝った。

市内の8月5日現在の70歳以上は1万77人(男性4129人、女性5948人)で、同地区は5176人と最も多い。式典で下地敏彦市長は「健康で長生きして、若い世代に皆さんから助言や提言をしてほしい」と述べた。地区を代表して市老人クラブ連合会平良支部長を務める上里寛昌さんが「笑いを忘れない生活こそ長寿の秘訣。明るく心豊かな生活を送ろう」と呼び掛けた。

市主催の敬老会は17日に下地、上野、城辺地区で開かれ、21日は佐良浜・伊良部両地区で開かれる。

富士開発が寄付
豊見城市に100万円

【豊見城】マンションやホテル事業を手掛ける富士開発(横浜市)の小尾一社長は17日、市役所に金城豊明市長を訪ね、若者の人材育成に役立ててほしいと100万円を寄付した＝写真。

同社は市豊崎にマンションを建設しているほか、今年4月には同地区初となる大型ホテル「グランビューガーデン沖縄」を開業している。

同社は昨年も同額を市へ寄付。市はスポーツ、文化の分野で県代表として九州、全国大会へ出場する子どもたちの派遣費として活用した。

小尾社長が「将来へ羽ばたく子どもたちのために使っていただければ」と目録を手渡すと、金城市長は「大切に使いたい」と感謝を述べた。

安慶名さんら県大会に派遣
中頭地区少年の主張

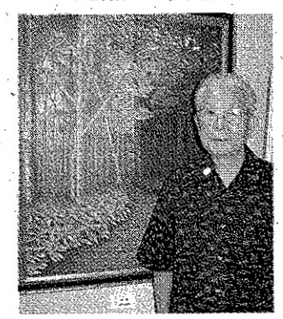
安慶名愛さん

【沖縄】第24回中頭地区少年の主張大会(主催・同地区青少年育成市町村民会議)が11日、市知花の中頭教育事務所で開かれ、10市町村代表の12人が熱弁をふるった。

審査の結果、「言葉の力」をテーマに発表した安慶名愛さん(読谷中3年)が最優秀賞に選ばれた。安慶名さんは、ある詩に出合い、勇気づけられた経験を発表。人を傷つけることも、慰めることもできる言葉を大切に使おうと呼び掛けた。

優秀賞には「ハンディ」の田場夢乃さん(普天間中3年)と「平和な世界に生きる幸せ」の花城日向子さん(コザ中学校3年)が選ばれた。田場さんはハンディを「私を成長させてくれるもの」と、前向きな意見を伝えた。花城さんは支えてくれる家族と一緒に過ごせる日常の大切さを訴えた。3人は25日に行われる県大会に出場する。

ひと粋
絵画と写真生きがい
比嘉　永光さん(87)



70歳を過ぎ、「生きがいになるような趣味を見つけたい」と思っていたところ、絵画と写真に出会い、創作を始めた。印象に残った風景を撮影、油絵で表現する。人物画にも取り組んでいて、生き生きとしたモデルの表情を切り取る。

地元、宜野湾市の普天満宮で米寿を記念した絵画と写真の個展を開いている。約50点の作品は、約15年の活動の成果を記録している。「多くの人に支えてもらったことに感謝したい。体が動く限り、創作を続けたい」。個展は28日まで。入場無料。(宜野湾)

普天満宮で個展開催中